

インテリアコーディネーター、 美術品蒐集家、表具師・岡来藏

「岡来藏関係資料」



「御泊所奉仕當時ノ職員一同 岡芝玉堂」。前列 右から2人目が岡来藏

明治期から昭和戦後期にかけて、日吉町に表具店を構えた岡来藏（号「芝玉堂」、1895～1953）の旧蔵品を中心とする資料群です。内容には、江戸時代の久留米藩窯の陶器や御用絵師三谷家の絵画、岡と親交の深かった芸術家の作品や書簡などがあります。

『石橋正一郎と画家をつなぐ』

昭和5年（1930）、秩父宮同妃両殿下御滞泊記念寫眞帖」に収められています。特に室内を飾った絵画は、この時のために制作を依頼したもので、蒐集家でも知られる正一郎の初期コレクションを形成します。

1936）や筆谷等觀（1875～1950）から岡に宛てた書簡が伝わり、正一郎の依頼を画家たちにつなぐため、奔走した岡の功績を映し

1936）や筆谷等觀（1875～1950）から岡に宛てた書簡が伝わり、正一郎の依頼を画家たちにつなぐため、奔走した岡の功績を映し

1936）や筆谷等觀（1875～1950）から岡に宛てた書簡が伝わり、正一郎の依頼を画家たちにつなぐため、奔走した岡の功績を映し

1936）や筆谷等觀（1875～1950）から岡に宛てた書簡が伝わり、正一郎の依頼を画家たちにつなぐため、奔走した岡の功績を映し

出します。

《芸術家との親交》

岡は表具師として美術品と接する一方、その蒐集家でもありました。日常的に芸術家と交流し、京町出身の洋画家・坂本繁一郎（1882～1969）や莊島町出身の鋳金家・豊田勝秋（1897～1972）と親交がありました。

岡は豊田の「鋳銅花器」2口を所有していました。1口は昭和4年（1929）に制作され、同6年の元型展に出品されたものです。元型とは、大正15年（1926）に結成された工芸家の団体で、豊田は結成から参加し、工芸美術の地位向上に尽力しました。

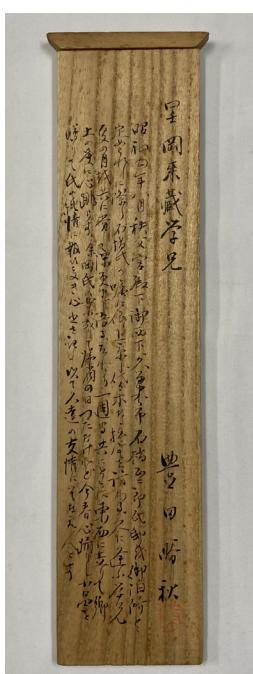


坂本繁二郎作「放牧一馬」

・坂本繁二郎「放牧一馬」

もう1口は、岡のために制作されたものです。作品を収めた箱の蓋に、その経緯が良く記されています。豊田は昭和5年（1930）に「学兄」と慕う岡との再会に感動し、翌年制作した作品を「久遠の友情にそなえん」として岡に贈りました。

岡の依頼を受けたものです。ただし、納品されたのは岡の没後で、作品には繁二郎の詫



昭和6年作鋳銅花器の箱書き

びの手紙が添えられています。

繁二郎は「馬の画家」と呼ばれるほど多くの馬の絵を描きました。本

作は水彩画で、絵の具の特性を生かした複雑な色味を用い、馬の体を立体的に表現しています。

・豊田勝秋「鋳銅花器」

岡は豊田の「鋳銅花器」2口を所有していました。1口は昭和4年（1929）に制作され、同6年の元型展に出品されたものです。元型とは、大正15年（1926）に結成された工芸家の団体で、豊田は結成から参加し、工芸美術の地位向上に尽力しました。